

1. 取り組みの概要について

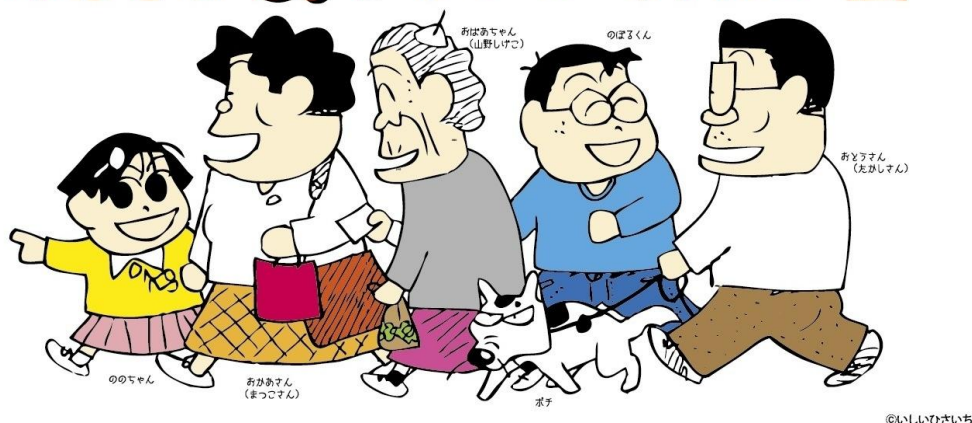
玉野市出身の漫画家いしいひさいち氏は「がんばれ！タブチくん」でブレイクし、日本漫画家協会大賞、菊池寛賞を受賞した人気漫画家であり、現在朝日新聞に連載中の「ののちゃん」の舞台は故郷玉野市といわれる。

地域の活性化を模索中の地元玉野市全般にいしいひさいち氏の作品が散りばめられた街並みおよび施設を設置するなど、その漫画の世界を玉野のまちづくりに活かし、地域を元気にすることを目的としている。

【「ののちゃんの街」のコンセプト】

- ①笑顔の街・・・「ののちゃん」「タブチくん」など明るいキャラクターで町全体を笑顔に。
- ②開かれた港町・・・漫画を通じて全国へ、世界へ情報発信する港町。
- ③昭和の町・・・市内に残る「昭和」の懐かしい街並みや建物を活かして再生。

ふるさとたまの！ののちゃんの街



【「ふるさとたまの！ののちゃんの街」のイメージ図】

2. 商店街概要

商店街名	築港商店会
所在地	岡山県玉野市築港
会員数	51店舗
URL	—

3. 取り組みに至る経緯・背景

発起人である玉野市中心市街地活性化協議会ののちゃん部会部会長である伊達元英氏（㈱ダテ薬局代表取締役）と柴田義朗氏（地元住民）が、昔からいしいひさいち先生の育った家の近くで暮らしており、以前から知名度のあるいしい先生の漫画を用いたまちおこしをしたいとの熱い思いをもち、「いしいひさいち先生のまちづくり」について提言書を市に提出した経緯がある。

すぐには実現しなかったが、後に玉野市出身の著名人との接触に取り組みはじめた市の動きもあり、いしい先生の母を通じて、いしい先生の漫画を用いたまちおこしをしたいとの意向を伝えた。東京にていしい氏本人に会い、いしい先生も玉野市のために何か力になりたいことから、承諾にこぎつけたことから取り組みが始まった。

4. 取り組み内容

（1）取り組み始めと資金集め

「ののちゃんの街」の取り組みは、商店街への看板やタペストリーの設置から始まる。平成22年3月からいしいひさいち部会運営資金の協賛金集めを開始し、これまでに16万円の協賛金を集めている。これは、これまでにいろいろなイベントや活動に取り組んできた地域のコミュニティがあってこそ、成し遂げた取り組みである。しかしながら、約200万円の支出があり、事業実施にあたっては、資金的な問題がある。

（2）部会メンバーの協力による実現

平成22年4月からは、毎週土日に「いしいひさいち展覧会」を開始するとともに、のちゃんグッズの作成や瀬戸内国際芸術フェスティバルへののちゃんブースの出展、イベントへの参加などに取り組んでいる。看板やタペストリーの設置、展覧会の実現、グッズの作成においては、伊達氏が市内の様々な分野で働いている人々に、部会メンバーに呼びかけたことが大きい。看板屋、HP作成、建材屋、グッズ作成など、部会メンバーが先行投資してくれたことがこれまでの取り組みの実現につながっている。展覧会場は、部会メンバーの手づくりと持ち寄りにより完成した。

（3）商店街との連携

取り組み始めやイベントの時には、「いしいひさいち展覧会」には多くの来客があったが、次第に減少していく。そこで、商店街の店舗に協力を呼びかけ、平成22年6月から築港商店街での食事利用券（50円引き券）の発行に取り組み、商店街と連携しながら取り組みを進めているところである。

【主な事業内容】

【平成21年度】

- ・部会を立上げ検討会議をはじめ（8月～）
- ・ダテ薬局築港店横「ふるさとたまの！ののちゃんの街」の看板完成（1月）
- ・築港商店街へののちゃん等のタペストリー設置（2月）
- ・ののちゃんぬりえ大会実施（3月）
- ・部会ホームページ立上げ（3月）

【主な事業内容】

【平成 22 年度】

- ・ 毎週土日「いしいひさいち展覧会」開始（4月3日～）
 - ・ めりえ展示
 - ・ DVD上映
 - ・ 4コマパネル作成
 - ・ 漫画本設置
 - ・ ののちゃんTシャツ、ハンカチ作成 など
- ・ 築港商店街での食事利用券（50円引き券）発行事業（6月～）
- ・ 展覧会場モデルチェンジ（仕事場再現コーナー設置・原画コーナー設置）（7月～）
 - ・ ののちゃんマフラータオル・ステッカー・シール作成
 - ・ 瀬戸内国際芸術向けへののちゃんブース出展
 - ・ 各商店街イベントへの参加（ののちゃんピンボール）
 - ・ 玉野まつりうちわ公告
- ・ 4コマ漫画大会設置（8月～）



【築港商店街への看板設置】



【シーサイドゲート出展】



【イベント：ののちゃんピンボール】

5. 取り組みによる成果

(1) 「いしいひさいち展覧会」の成果

平成 22 年 4 月 3 日から開始した「いしいひさいち展覧会」は、7 月 19 日時点で 1,396 人の入場があり、土日は多くの来街がある。現在（瀬戸内国際芸術祭開催期間中）は、直島への観光客が立ち寄る遠方からの来街も見られるが、市内や近隣都市からは「いしいひさいち展覧会」を目的に来街している人も多い。中には、東京から「いしいひさいち展覧会」を目当てに来街する人もいる。

(2) 最終的な目標及び成果（想定）

「ののちゃんの街」の取り組みを玉野市だけで完結できるようにしたい。「ののちゃんの街」には、市内の他の資源や施設とも連携できる可能性を秘めていることから、連携しながら市内に「ののちゃんの街」を広めていきたい。最終的には、漫画館の設置、いしいひさいちロード整備、JR いしいひさいち列車、バス車体やフェリーにイラスト、ののちゃん切手、ののちゃんグルメの開発などに取り組んでいきたいと考えている。中心市街地活性化の事業と一体的に動いていく必要がある。

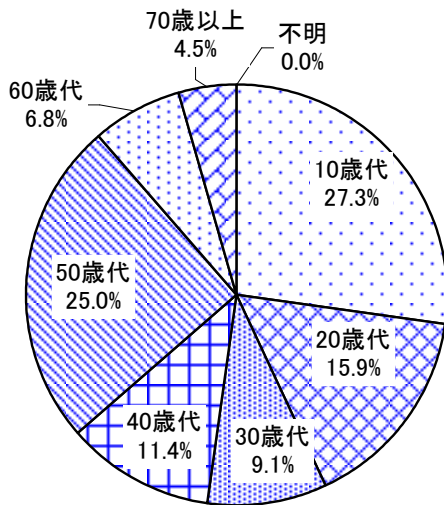
「いしいひさいち展覧会」は、現在は仮の施設であるが、将来的には「ののちゃんの街」の拠点となる施設を持ちたいと考えている。



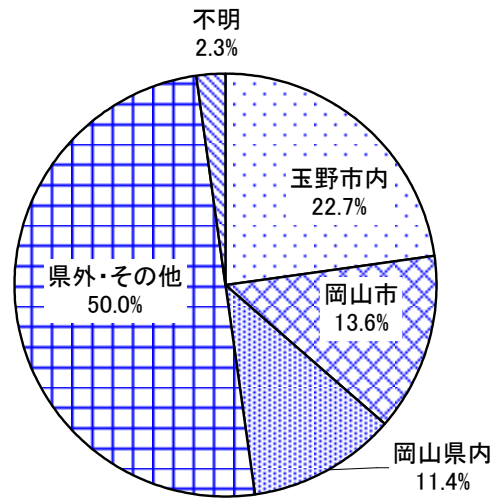
【いしいひさいち展覧会場】



【いしいひさいち展覧会場への来客】



【展覧会への来客（年齢別）】



【展覧会への来客（地域別）】

※8月21日から8月29日調査

6. 取り組みにおける課題

(1) 財政上の課題

事業実施や活動の継続にあたって、財源の確保が課題である。ののちゃんグッズを売り上げて、財源を確保していかないといけない状況である。玉野市や岡山県の支援メニューを活用するとともに、中心市街地活性化基本計画における支援（国の支援）があれば活用したいと考えている。

(2) 組織づくりの課題

「いしいひさいち展覧会」などの運営にあたって、個人負担を減らすため、1人でも事務員をおきたいと考えているが、資金の問題がある。事業主体の組織としてNPO法人化を考えており、選任スタッフの雇用などに取り組んでいきたいと考えている。

(3) 周知・集客にあたっての課題

もっと玉野市民へ「ののちゃんの街」としての意識醸成とPRが必要であると考えている。市民にアピールするため、市内を1周するような移動展示や他地区への出張展示などにも取り組んでいく必要があると考えている。



【ののちゃんグッズのデザイン】

7. 連携した団体、キーパーソンについて

(1) 発起人の熱い思いと身内の協力

発起人が以前から考えていた「ののちゃんの街」に対する熱い思いが、地元の熱い思いとしていしい先生の母に伝わり、その協力もあっていしい先生に承諾を得ることができた。

(2) 部会メンバーの協力

看板作成や HP 作成、グッズ作成の際には、様々な職種をもつ部会メンバーが先行投資してくれるなどの協力があり、取り組みが実現している。

(3) 協賛金集めの際に地域コミュニティ

これまでに様々な活動やイベントに取り組んできた地域コミュニティもあり、地域の信頼関係から多くの企業から協賛金を集めることができた。

(4) 商店街の理解

築港商店街での食事利用券（50 円引き券）の発行に取り組むにおいて、飲食店の協力はあるが、商店街全体への理解にはまだ時間がかかる。

8. その他

現在は、いしいひさいち展覧会は仮の場所で開催しているが、将来的には活動の拠点となる会場を設けたいと考えている。また、商店街に留まらず、市内各地の施設や資源と連携しながら、「ののちゃんの街」を玉野市全体に広げていきたいと考えている。

その拠点として、築港商店街と連携しながら、まちを元気にしていきたいと考えている。



【築港商店街の様子】